

# 中原悌二郎記念 旭川市彫刻美術館

## 中原悌二郎賞受賞者

- 第1回(1970年) 木内 亮  
第2回(1971年) 西 澤雄  
第3回(1972年) 舟越 保武  
第4回(1973年) 高橋 清  
第5回(1974年) 榎原 義達  
第6回(1975年) 佐藤 忠良  
第7回(1976年) 吉田 秀夫  
第8回(1977年) 該当なし  
第9回(1978年) 辻 政之  
第10回(1979年) 櫻井 祐一  
第11回(1980年) 寒川 典英  
第12回(1981年) 建部 覚造  
第13回(1982年) 千野 彦  
第14回(1983年) 山口 牧生  
第15回(1984年) 向井 貞吉  
第16回(1985年) 鈴木 実  
第17回(1986年) 岩野 勇三  
第18回(1987年) 大成 浩  
第19回(1988年) 空 邦秋  
第20回(1989年) 池田 宗弘  
第21回(1990年) 土谷 武  
第22回(1991年) 井上 武吉  
第23回(1992年) 榎井 五郎  
第24回(1993年) 江口 暎  
第25回(1994年) 加藤 昭男  
第26回(1995年) 保田 春彦  
第27回(1996年) 若林 重  
第28回(1997年) 下田 岩  
第29回(1998年) 清水 九兵衛  
第30回(1999年) 若妻 兼治郎  
第31回(2000年) 山本 正壽  
第32回(2001年) 広井 力  
第33回(2003年) 舟越 桂  
第34回(2005年) 該当なし  
第35回(2007年) 鈴木 久雄  
第36回(2009年) 大平 貴  
第37回(2011年) 小泉 慎己  
第38回(2013年) 榎松 至二  
第39回(2015年) 戸谷 成雄  
第40回(2017年) 南木 野枝



中原悌二郎【若きカフカス人】

## 利用のご案内

○開館時間：午前9時から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)

○休館日：毎週月曜日(月曜が祝日の場合は翌日)、年末年始

(単位：円)

観覧料	彫刻美術館単独券			井上靖記念館共通券	
	個人	団体	バスポート	個人	バスポート
一般	300	240	600	450	900
高校生	200	160	400	250	500
中学生以下	無料				

※団体とは一般又は高校生で各20名以上です。

※バスポートは初めてご使用になった日から1年間有効です。

※70歳以上の旭川市民及び心身に障がいのある方など、観覧料が免除となる場合があります。

### 交通のご案内・周辺図



**旭川電気軌道バス**  
旭川駅前バスタッチ5番のりばから(所要時間約25分)  
春光6の9行(22番・80番・522番)  
未広4の1行(5番) ※いずれも「春光園前」下車  
**自動車**  
旭川駅前から約20分  
道央自動車道 ※旭川西橋IC下車(所要時間約10分)  
**駐車場**  
専用駐車場 有り(7台分)



## 中原悌二郎記念

# 旭川市彫刻美術館



〒070-0875 北海道旭川市春光5条7丁目 Tel:0166-46-6277 Fax:0166-46-6288

<http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/kurashi/329/348/358/index.html>

このリーフレットは公益財団法人北海道村振興協会(サマージャンボくじの収益金)の助成を受けて作成しています。

20170831 20000

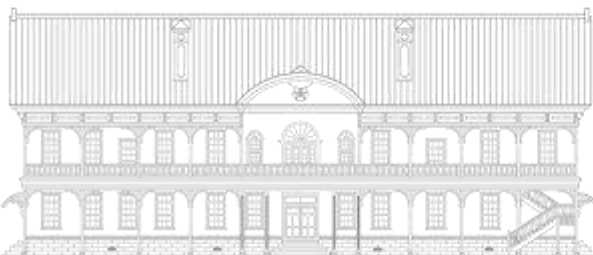
## 中原悌二郎記念

# 旭川市彫刻美術館

旭川市彫刻美術館は、日本の近代彫刻史に大きな足跡を残した旭川ゆかりの彫刻家、中原悌二郎を記念した彫刻専門の美術館です。

中原悌二郎が残した12点の彫刻を中心に、ロダン・萩原守衛といった悌二郎に影響を与えた作家や、昭和45年(1970年)に旭川市が創設した中原悌二郎賞の受賞者作品、旭川と北海道ゆかりの作家の作品群は、日本の近現代彫刻史を展望することができます優れたものになっています。

この美術館は、彫刻の常設展示のほか、企画展、講演会、講座など、彫刻に関する各種事業を行うとともに、彫刻及び彫刻家に関する資料の収集にも努め、「彫刻のまち旭川」にふさわしい個性ある内容となっております。



## 重要文化財 旧旭川偕行社

この建物は、旧陸軍第七師団が旭川に設営された時に、将校達の社交場として明治35年(1902年)に建設されました。設計は陸軍臨時建築部、施工は大倉組です。

建物は、おもに師団関係者の会議・研修会・講演会・宴会・結婚披露宴・宿泊等に使用され、また皇太子時代の大正天皇や昭和天皇の来旭の折の行在所にも使用されました。終戦後は、一時アメリカ軍の将校クラブとして使用され、昭和24年(1949年)に国から旭川市に移管されて、仮校舎などに使用されていました。

昭和43年(1968年)、この建物を博物館に転用するために、復元修理工事を実施し、市立旭川郷土博物館として、24年間にわたり保存活用されてきました。平成5年(1993年)博物館の新築移転にともなって、新たに開設される彫刻美術館に転用され、平成6年(1994年)6月1日に開館しました。

この建物は、木造二階建の大きなもので、北海道における洋風の本格的なクラブ建築として特徴をもち、意匠も優れていることから、平成元年(1989年)5月19日、国の重要文化財の指定を受けています。

平成24年(2012年)から平成29年(2017年)まで建物を半解体し耐震補強をするほか、必要な修理を実施した上で復元する大規模改修を実施しました。

## 中原梯二郎記念の作品



梯二郎は、32年の生涯の中で、25点の作品を制作しましたが、自らの手で壊すなどして、現存する作品はわずか12点のみです。彼の代表作である「若きカフカス人」など、全作品を所蔵・展示しています。

●中原梯二郎【若きカフカス人】



●中原梯二郎【女の顔】



●中原梯二郎【三宅辨次郎像】



●中原梯二郎【抱える女】



●中原梯二郎【石井鶴三像】



●中原梯二郎【保田龍門像】



●中原梯二郎【老人】



●中原梯二郎【平柳田中像】



●中原梯二郎【留守老人像】



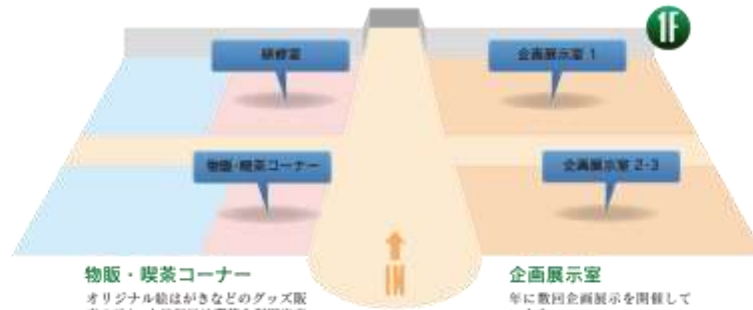
**中原梯二郎資料室**  
中原梯二郎の足跡を辿る貴重な資料を展示しています。



**常設展示室**  
中原梯二郎と周辺の近代彫刻及び旭川と北海道ゆかりの彫刻、中原受賞作家の作品を展示しています。



**旧旭川信行社資料室**  
旧旭川信行社の歩みと貴重な資料を展示しています。



**物販・喫茶コーナー**  
オリジナル絵はがきなどのグッズ販売のほか、土日祝日は喫茶を利用出来ます。運営は、ボランティアの会みまうす。

**企画展示室**  
年に数回企画展示を開催しています。



## 旭川市彫刻美術館の所蔵作品

この美術館では、梯二郎の作品をはじめ、梯二郎に大きな影響を与えたロダン・萩原守衛の作品、同じ研究所で学んだ友人の石井鶴三・堀進二の作品、梯二郎の影響を受けて彫刻家になった加藤顕清の作品などを所蔵しています。

また、昭和45年(1970年)に梯二郎の偉業を顕彰して、旭川市が創設した「中原梯二郎賞」の受賞作品を所蔵するとともに、この賞の選考委員であった山内壮夫・本郷新の作品、第1回の受賞が縁で寄贈された木内克の作品などを所蔵しています。また、新田実や板津邦夫など旭川にゆかりのある作家の作品も所蔵しています。これらの作品群は、日本の近現代彫刻の充実したコレクションとして高い評価を受けています。

所蔵作品を大きく分けると、明治末から大正にかけての日本の近代彫刻の成立期の作品群、木内克・柳原義達・佐藤忠良・舟越保武などの具象作品群、建畠覚造・向井良吉・土谷武などの抽象作品群の三つに分けられます。梯二郎のブロンズ作品から色々な素材による現代彫刻まで、これらの多様な所蔵作品は、常設展や企画展で見ることができます。



●オーギュスト・ロダン【ジャン・テールの裸体習作】



●萩原守衛【抗夫】



●石井鶴三【中原氏像】



●舟越保武【原の城】



●木内克【婦人誕生】



●柳原義達【道標・城】



●佐藤忠良【カンカン帽】



●加藤顕清【コタンのアイス】



●山内壮夫【馬の碑Ⅱ】